



# 国有林材の安定供給に向けた取組

## 資源活用第一課

### はじめに

国有林野事業では、公益重視の管理経営を一層推進しつつ、地域における木材安定供給体制の構築等を図るため、森林の機能に応じた施業の結果、得られる木材の持続的かつ計画的な供給に努めることとされています。



写真-1 国有林材供給調整検討委員会

平成30年度は、北海道の国有林から供給する木材は、トドマツ、カラマツの針葉樹を中心に、立木によるものが約78万立方メートル、素材(丸太)によるものが約64万立方メートルとなっております。

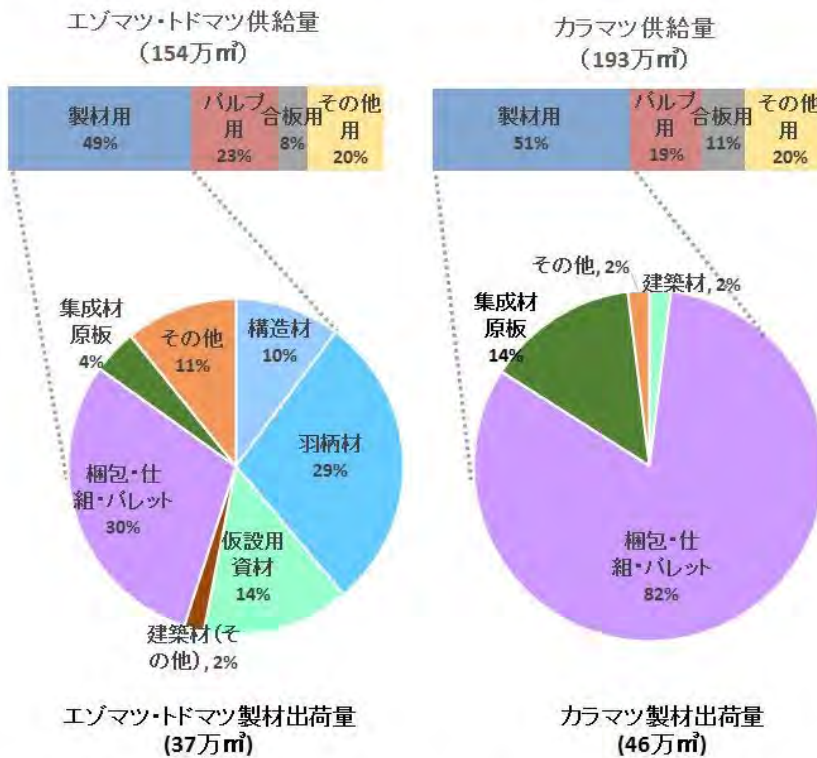
また、北海道森林管理局においては、国産材を政策的に供給し得る国有林の優位性を活かし、価格急変時の供給調整機能を発揮する目的で、四半期毎に「北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を開催しています。

この委員会では、学識経験者や林業、木材業界の団体、事業者等の外部有識者等が構成メンバーとなり、地域の木材の価格や需給の動向を把握・分析し、国有林からの木材の供給量や供給時期の調整が必要なのかどうかの検討等を行っています。(写真-1)

この委員会の検討結果を踏まえ、国有林材の安定供給に努めることにも、検

討内容をホームページで公表し、木材供給等に係る情報を発信しています。

○針葉樹  
北海道森林管理局における針葉樹の収穫は、人工林の主伐及び間伐によるものが主体で、樹種別には、



(出典)H28年度 北海道木材需給実績 木材需給情報(平成29年9月分確報)

図-1 針葉樹材の供給量と製材の用途別の内訳

トドマツ、カラマツ、エゾマツ、スギ等であり、このうちトドマツが71%、カラマツが18%と全体の収穫量の約9割を占めています。

北海道産のトドマツやカラマツは製材用として利用されるほか、合板、パルプ・チップ用などに利用されています。

トドマツやカラマツの製材は、主に荷物の梱包用材や工事現場で使用するコンクリート型枠用の角材(栈木)といった産業用の資材としての利用が大半を占めています。建築用としては、比較的小さな板材や角材(羽柄材)、集成材用の原板としての利用が多く、柱・梁など建築物の構造を担う部材としての利用はわずかです。(図1)

これらの資材や部材の生産には、主に小・中径木の丸太が利用されますが、北海道では、人工林の高齢化に伴って、トドマツや

カラマツの小・中径木の供給量が減少しています。

このため、北海道森林管理局では、小・中径木不足の現状を踏まえ、需要に応じた採材、仕訳を徹底し、製材工場等の需要に 대응することが出来るよう取り組むほか、高齢級化により大径となったトドマツやカラマツの構造材としての利用推進等、道産材の付加価値の向上に向けて取り組んでいます。(写真1、2)



写真-2 銘木市に出品したトドマツ

○広葉樹  
北海道森林管理局における広葉樹の収穫は、針葉樹人工林の中に点在する

広葉樹によるものを主体としており、その大部分がパルプ・チップ用として利用されています。(図-2)



図-2 広葉樹材の供給量と用途別の内訳

これらの広葉樹を様々な用途で有効に活用するため、平成29年度に、これまで家具材やフロア材としての利用がなかった樹種や中小径木材の利用可能性について、国有林の買受事業者等に対しアンケート調査を行うとともに、広葉樹の需要者や流通業者、林産加工研究機関に対して聞き取り調査を実施しました。

調査の結果、北海道産広葉樹を有効に活用していくためには、北海道産広葉樹の安定供給などが課題とされたところです。また、供給が不足している樹種としては、ミズナラ、タモ等の旧来から利用されている樹種が、今後利用

拡大が期待される樹種としては、それらのほかシラカンバやハンノキといった早生の樹種が上げられました。(表)

このため、北海道森林管理局では、収穫された広葉樹が家具材やフロア材にも活用出来るような採材

に努めるとともに、伐期を迎えた全ての人工林を対象として、もともと北海道にあったような針葉樹と広葉樹が混交した森林づくりを進めることとして

【表】アンケート調査結果

北海道産広葉樹の安定供給に関する主な意見
① 需要に対して北海道産広葉樹原木供給量が少ない。
② 全体的に品薄のため、広葉樹一般材価格が上昇している。
③ 樹種、量、品質の安定した供給がない。
④ 広葉樹商品の開発を進める上で、原木の安定的供給にかかる将来の見通しが悪い。
需要に応じた広葉樹材の供給に関する主な意見
① 良質材(大径材)の供給が少ないため、天板用等の太い材は外材に頼らざるを得ない。
② シナ等の合板用材は22cm程度から使用可能だが、国有林の採材2.4mでは歩留まりが悪い。(合板の場合2.1mが標準)
③ シラカバの利用に取り組んできたが供給量が絶対的に不足している。需要に対して北海道産広葉樹原木供給量が少ない。
供給が不足している樹種、用途
ミズナラ(建築、家具建具、合単板、ウイスキー樽等)
タモ(建築、合単板、家具建具、野球バット等)
メジロカバ(合単板、建築、家具建具等)
セン(合単板、建築、家具建具等)
シナ(合単板、家具建具等)
今後利用拡大が期待される樹種、用途
ミズナラ(フロア、家具、ウイスキー樽)
クルミ(家具)
クリ(フロア)
サクラ(家具)
シラカンバ(合単板、木工品、家具)
ハンノキ(合単板、家具)